

# 令和7年度 菊池寛記念館 文芸講座 withまなびCAN

日 時 : 令和7年8月～令和8年3月までの指定日(全8回) 午後1時30分～3時00分

会場・参加費 : 高松市片原町11番地1 高松市涯学習センター(まなびCAN) 2階 大研修室

無 料/申込み不要(当日、直接会場へ) 先着60名

主 催 : 高松市 共催: 菊池寛顕彰会

※問い合わせ先: 菊池寛記念館(電話087-861-4502/高松市昭和町一丁目2番20号 サンクリスタル高松3階)

※天候等により変更又は中止になる場合があります。

※問い合わせ先: 7月2日以降 菊池寛記念館仮事務所(電話番号 同上/高松市中央卸売市場管理棟2階(高松市瀬戸内町30番5号))

※リニューアル改修工事に伴い、菊池寛記念館を含むサンクリスタル高松は、5月7日から休館しています。

| 回 | 開催日                 | 講 師 (敬称略)                                              | 「テーマ」                                                      | 講演の概要                                                                                                                                                                   |
|---|---------------------|--------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 令和7年<br>8/2<br>(土)  | ノートルダム清心女子大学<br>文学部 日本語日本文学科<br>教授、博士(文学)<br><br>東城 敏毅 | 東歌「沓履 <sup>くは</sup> けわが背」<br>から見る東国<br>—『万葉集』信濃国<br>東歌の分析— | 『万葉集』東歌には、信濃国の以下の歌が収載されています。「信濃道(しなのち)は 今の壑(は)り道 刈りばねに 足踏ましむな 沓履(くつは) け我が背」。本講演では、当該歌を分析することにより、奈良時代における信濃国の文化背景、さらには東国と大和との密接な関係性を解明します。                               |
| 2 | 9/6<br>(土)          | 香川大学 教育学部<br>准教授<br><br>北原 圭一郎                         | 六条院の光源氏                                                    | 須磨・明石での流謫を経て帰京し、権勢を極めた後の光源氏には、以前の若き日々とは異なる面が多くみられます。六条院が舞台となる玉鬘十帖を中心に、この時期の光源氏がどのように描かれているのかを考えます。                                                                      |
| 3 | 10/4<br>(土)         | 香川大学 教育学部<br>教授 博士(文学)<br><br>渡邊 史郎                    | 「汝の欲するところを<br>なせ」——第二次大戦<br>下の童話的世界                        | 第二次大戦下では、童話的なもののリニューアルが行われました。花田清輝も「童話考」や「汝の欲するところをなせ——アンデルセン」で、童話に、現実逃避でない、欲望と感性と論理の先鋭化を再発見しました。そういう試みの意義を考えます。                                                        |
| 4 | 11/1<br>(土)         | 四国大学 文学部<br>書道文化学科 教授<br><br>太田 剛                      | 「菊池家文書」<br>から知る江戸時代<br>の菊池家の歴史                             | 2014年に菊池寛の旧宅から発見された菊池家文書は、ほぼ草書による古文書で、それらは難解であるが時間をかけて解読することで、江戸時代の菊池家やその関係者の歴史が解明されつつあります。これまでわかった情報の一部を紹介します。                                                         |
| 5 | 令和8年<br>1/10<br>(土) | 翻訳家(上橋菜穂子『精霊の守り人』『闇の守り人』などの和英訳)<br><br>平野 キャシー         | 翻訳のむずかしさ、<br>大切さ                                           | 文学・児童文学を訳する大切さ、その難しさと面白さ、翻訳プロセスのあれこれについてお話します。                                                                                                                          |
| 6 | 2/7<br>(土)          | 株式会社半空 代表取締役<br>社長 半空文学賞主宰<br><br>岡田 陽介                | 香川が生んだ<br>奇才の魅力                                            | 反骨のジャーナリスト〈宮武外骨〉、胎児の成長過程から人類の生命記憶を解き明かした〈三木茂夫〉、『唯幻論』を提唱し人間の精神構造を明らかにした〈岸田秀〉。香川が生んだ奇才の魅力に、それぞれの重要な著作から迫っていきます。                                                           |
| 7 | 3/7<br>(土)          | 高松大学 発達科学部<br>教授<br><br>澤田 文男                          | 宮沢賢治は<br>何を求めたのか                                           | 宮沢賢治は、生涯かけて何を求めたのか。これは大きな問題で、簡単に理解できるはずはありませんが、この講座を通じて少しでも彼の求めるものに近づこうと思います。<br>その一歩として、彼の複数の作品をとおして、書き手である彼の求めたものは何かを探るとともに、読み手である私たちの読むことの多様性、可能性も皆さんと共に考えてみたいと思います。 |
| 8 | 3/28<br>(土)         | 香川菊池寛賞受賞者<br>ずいひつ遍路宿の会 会長<br><br>福井 明子                 | 言葉を耕す<br>心をたがやす                                            | 思いを言葉にすること、「書くこと」についてお話します。言葉を耕すことは、心をたがやすことです。                                                                                                                         |